

選 挙 公 示
2024 年 5 月 9 日

日本気象学会九州支部選挙管理委員会
選挙管理委員 西郷雅典・小川浩司

第 43 期日本気象学会九州支部理事の選挙について

標記について、下記のとおり選挙を実施します。
今回は候補者数が理事の定数の枠内のため、信任投票となります。

記

- 候補者氏名（届出順） 所属
竹村 俊彦 九州大学応用力学研究所・教授
河野 香 九州大学応用力学研究所・日本気象予報士会西部支部
植田 亨 鹿児島地方気象台・台長
鈴木 賢士 山口大学大学院創成科学研究科農学系学域・教授
藤 貴志 福岡管区気象台・気象防災部長
望月 崇 九州大学大学院理学研究院・准教授
河本 和明 長崎大学大学院総合生産科学研究科・教授
尾崎 友亮 福岡管区気象台・台長
西 憲敬 福岡大学理学部地球圏科学科・教授
- 理事の定数 概ね 8 名
- 投票の方法 無記名の信任投票となります。
郵送された立候補者の所信を参考に、投票用紙に信任の場合○を、
不信任の場合×を記入し、郵送ください。
○×以外が記入されている場合（無記入を含む）は、その候補者
に対する投票は無効とします。
- 投票締切日 2024 年 5 月 24 日（金）（必着）
※5 月 9 日に投票用紙および立候補者の所信等を発送しました。万
一数日たっても投票用紙等が届かない場合は、九州支部選挙管理委
員会までご連絡ください。
- 投票用紙送付先 〒810-0052 福岡市中央区大濠 1-2-36
福岡管区気象台 気象防災部地域防災推進課内
日本気象学会九州支部 選挙管理委員会
電話：092-725-3614 e-mail: info@msj-kyushu.jp

第 43 期日本気象学会九州支部理事選挙候補者

ふりがな たけむら としひこ
氏名：竹村 俊彦

所属：九州大学応用力学研究所・教授

所信：九州支部理事をこれまでに 2 期務めました。その間、コロナ禍に伴い、支部が主催するイベントがオンライン・ハイブリッドへ変遷していきましたが、これらの運営に貢献させていただきました。また、42 期からは、日本気象学会理事も務めており、九州支部の意見を集約して伝えるなど、中央との橋渡しの役割を担っております。今期は、2025 年度秋季大会の福岡開催が控えております。支部と中央との連携をより必要とする期間ですので、両方の理事として、その役割を全うできるように努力いたします。また、中央で今後議論が進むであろう会員数増加の方策について、九州支部でも率先して実施できるようにしたいと考えています。

ふりがな こうの かおり
氏名：河野 香

所属：九州大学応用力学研究所、日本気象予報士会西部支部

所信：私は 2019 年に気象予報士を取得、その後最先端の気象研究に触れたくて 2021 年に日本気象学会に入会しました。学内には気象関係の研究者や学生が多数在籍しておりますが、私は気象が本務ではないため予報士会の活動がメインです。予報士会は異業種交流の場でもあり、会員は地域の防災プロジェクト（气象台と連携）や個々の専門分野で活躍しています。しかし、最新の学術的な研究成果に触れる機会が少ないのが現状です。私は気象学会九州支部と予報士会西部支部が、垣根を超えて各々の研究成果や知識を広く共有し、互いに情報をアップデートする機会を増やしたいと考えています。気象学会と予報士会の橋渡し役として尽力いたします。

ふりがな うえだ とおる
氏名：植田 亨

所属：鹿児島地方气象台・台長

所信：九州は繰り返し大規模な気象災害に見舞われる地域であり、気象学の発展はこうした災害の防止軽減に大きく寄与するものです。気象庁職員として長年気象にかかわってきた知識と経験を活かし、九州地区における気象学の研究の一層の進展に貢献するよう、微力を尽くして参る所存です。

ふりがな すずき けんじ
氏名：鈴木 賢士

所属：山口大学大学院創成科学研究科農学系学域・教授

所信：九州・山口地方は暖候期の降水現象に特徴があり、毎年のように豪雨による被害が報告されます。このような被害が報告されるたびにづらい思いをしなければいけません。一般市民に向けた防災・減災の啓蒙活動など、より地域に目を向けた支部の活動が果たす役割はまだまだ大きいといえます。また、このところ研究発表件数が少なくなったと少し寂しく感じる支部発表会は地方特有の気象現象をさまざまな立場から探究し議論できる場であり、令和 7 年には全国大会の福岡開催が予定されています。私は教育や研究に携わる者として、このような支部活動を盛り上げるべく、微力なが

ら学会および支部活動に尽力したいと思います。

ふりがな ふじ あつし
氏名：藤 貴志

所属：福岡管区気象台・気象防災部長

所信：九州地方では、平成 29 年 7 月九州北部豪雨以降、7 年連続で大雨特別警報が発表されるなど、線状降水帯等により甚大な被害を受けてきています。

また、昨年 1 年間の世界の平均気温は、産業革命の前に比べて 1.4 度余り上昇し、観測史上最も高くなったとする報告書を WMO がまとめており、今後も地球温暖化に伴い気象現象のさらなる激甚化が進むおそれがある等、線状降水帯をはじめとした気象現象の予測精度向上を図り、事前の避難行動等により国民の生命・財産を守ることが喫緊の課題となっています。

一方、令和 7 年は明治 8 年に気象庁の前身である東京気象台が当時の溜池葵町（現在の虎ノ門 2 丁目）で観測を開始して 150 年の節目にあたり、気象庁や日本気象学会のみならず気象業界全体が緊密な連携を図り、気象事業に係る認知度や社会的意義の向上を図っていく必要があると考えています。

このような中、気象学の発展を支えてきた日本気象学会の役割は極めて重要であり、気象事業のさらなる発展のため、微力ながら貢献させていただきたいと存じますので、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

ふりがな もちづき たかし
氏名：望月 崇

所属：九州大学大学院理学研究院・准教授

所信：集中豪雨や台風といった常に注目を集める現象はもちろん、冬季気象現象や気候変動、防災減災も含めた予報技術、農業漁業への応用など、日々の暮らしを広範に支える気象学の発展は大きな社会的意義をもちます。第 42 期では、こうした幅広い分野を意識しながら、気象教室、気象サイエンスカフェ、支部発表会、ジュニアセッション in 九州の全てにおいて担当理事として活動させていただきました。様々な背景をもつ様々な年代の人々が研究最前線に触れると同時に双方向交流をおこなえる機会のさらなる充実を図り、日本気象学会九州支部と気象学の発展に引き続き貢献します。

ふりがな かわもと かずあき
氏名：河本 和明

所属：長崎大学大学院総合生産科学研究科・教授

所信：天気は日々の生活の中で最も身近な自然現象の一つであり、また地球温暖化や気候変動は社会的にも大きな注目を浴びている地球環境問題です。長崎を含めて九州では豪雨や台風、黄砂や PM_{2.5} など様々な大気現象が発生しますので、気象に対する一般の方の関心は高いと思います。学校教育で地学を勉強したり天気図を描く機会が少ない中、若い世代を含めた幅広い年代の方々に天気や気象に興味を持っていただき、また気象知識の普及をはじめとした日本気象学会九州支部の活動を知っていただけるよう尽力していきたいと考えています。

ふりがな おぎき ともあき
氏名：尾崎 友亮

所属：福岡管区気象台・台長

所信：九州支部内では豪雨災害が相次いでおり、大雨の特別警報は昨年まで 7 年連続の発表となりました。豪雨災害の多くが線状降水帯によりもたらされることから、気象庁・

気象台では線状降水帯の予測精度向上に向けた取り組みを強化しています。線状降水帯は発生要因や維持等のメカニズム等未解明のことが多く、予測精度向上においては研究分野との協力が不可欠であり、支部内の大学等との連携のもと、機構解明研究を進めています。本件に代表されるように、気象業務は永く研究分野と連携を密にして発展し、気象防災の観点からも様々な成果を生んできました。九州支部の理事として気象分野における官学連携の維持・発展に貢献していきたいと思ひます。

ふりがな にし のりゆき
氏名：西 憲敬

所属：福岡大学理学部地球圏科学科・教授

所信：私は総観規模気象に興味をもっています。温帯低気圧や移動性高気圧など、長く気象学の歴史の中心にあった現象です。今までにおびただしい数の研究があり、また現在の数値モデルは時にはそれらの発生前からかなり正確にその位置や強さを予報することができます。しかし、その本質を大学生に、高校生に、あるいは自治体の方々にわかりやすく伝えるのは、今でも大変難しいです。学会の各種行事などを通して、お互いの研究や教育に役立つような、気象の本質を伝え合える場所作りを心がけたいと思ひています。

(以上)